

院内用

RT181

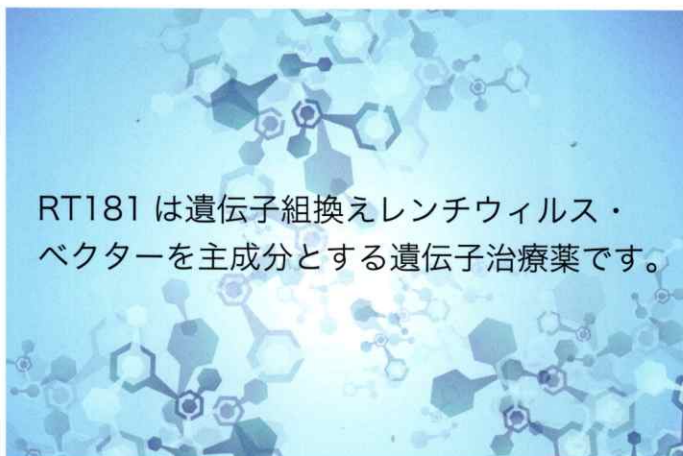
がん遺伝子治療

がん抑制遺伝子を正常に機能させるのが遺伝子治療です。

遺伝子治療薬 cdc6 「核酸活性タンパク複合体」 RT181

がん抑制遺伝子を活性化させ、がんの増殖を抑制させます。遺伝子レベルで、変異した核タンパク質の P53 遺伝子などを正常化させます。さらにはがん細胞の抗原を認識して直接、がん細胞に作用し、がん細胞を正常細胞におきかえる作用があります。がんが増殖する過程で変異したがん抑制遺伝子を、正常ながん抑制遺伝子に戻すことは非常に有効であると考えられています。通院で全身投与することもできます。

■ DNA を修復する RT181



RT181 は遺伝子組換えレンチウイルス・ベクターを主成分とする遺伝子治療薬です。

■ RT181 仕様書抜粋

【薬品名称】

遺伝子治療薬 cdc6 「核酸活性タンパク複合体」 RT181

【成分】

TNF（腫瘍壊死因子）の組換え型変異体、各種の遺伝子情報を持つリボ核酸（RNA）と活性タンパクの複合体、アミノ酸残基 96 個の低分子。無毒化したウィルスタンパクを有する。

【用法・容量】

投与前氷解下で 60 分位で自然解凍。生理食塩で希釈したものを状況に応じて局所あるいは点滴で全身投与する。

【副作用】

投与後 30～60 分に 38～39℃の発熱と悪寒が出る場合がある。対症療法として解熱剤使用で 30～40 分で平熱に戻る。

【毒性研究】

米国 FDA 規定ガイドラインに基づいた毒性試験において治療に伴う必要投与量の安全は確認済。

【貯蔵】

-86℃で冷凍保存。移動はドライアイスを使用して-86℃を保つ。有効期限は-86℃で 6 ヶ月。

正常細胞には「p53」と呼ばれる遺伝子などが深く関わり、正常細胞の増殖周期をコントロールしています。細胞の DNA が複製される時に損傷をうける DNA を修復して、それを維持させる遺伝子群が私達の体にそなわっています。この機構がないと DNA を修復する機会が激減して損傷を受けた DNA は修復される事なく、細胞は変異してがん化します。

遺伝子治療薬 RT181 は人体組織のがん化した細胞に侵入して、DNA の増殖サイクル（シグナル伝達機構）を阻害する作用があります。増殖周期を遮断されたがん細胞（がん巣）を縮小させます。

固形がん、血行性転移、リンパ行性転移、播種に有効性が認められています。変異をおこしてがん化した細胞のみに作用しますので正常細胞には有害な影響はありません。

ガン遺伝子治療サポートセンターは今後、がん治療の中心になっていくと思われる遺伝子治療の普及に少しでもお役にたてればと思っております。

ガン遺伝子治療サポートセンター
0120-700-107



ガン遺伝子治療サポートセンター

www.ca-gls.com

0120-700-107

お問い合わせは

平日/土曜日、朝 10 時より午後 6 時迄です。

株式会社 グラフィティ メディカルサポート部

〒400-0025 山梨県甲府市朝日 2-13-11

TEL 055-253-5337 FAX 055-253-5700
